

## ■ 龍野高陸上競技部

# 創部100年祝い 記念碑を建立

### 「さらなる飛躍を」

同中学時代は、全国中学校選手権大会で3年連続の総合優勝を果たすなど黄金期を築いた。28（昭和3）年、アムステルダム五輪の110メートルハードルで、準決勝に進んだ三木義

雄さん（中学23回生）も輩出した。48年に龍野高校となつて以降も、インターハイや国民体育大会などを舞台に部員の活躍が続いている。

記念碑は、陸友会が記念事業として寄付金を募り、練習場の入り口に設置。縦1.8メートル、幅1.5メートルの御影石に、同部の軌跡と全日本クラスの大会に出場した選手名を刻んだ。

除幕式では八木利正会長（75）が「ここに輝かしい歴史をどよめ、後輩には新たな100年の飛躍を期待したい」とあいさつ。現役部員を代表し、男子主将で2年の貝賀一仁さん（17）が「先輩が築いた伝統を受け継ぎ、良い結果が報告できるよう練習に励みたい」と意気込みを述べた。

高校6回生で国体に3年連続出場するなどし、昨年亡くなった水木美智子さんの長男、貴田茂さん（56）も東京から駆け付けた。「母親の足跡を刻んでもらえて感謝したい。この記念碑で先輩や後輩、恩師の絆を深めてほしい」と話した。（松本茂祥）



龍野高校陸上競技部の創部100年を記念し、お披露目された石碑  
― たつの市龍野町日山

龍野高校（たつの市龍野町日山）の陸上競技部が創部100周年を迎え、卒業生でつくる陸友会が母校に記念碑を建立した。10日には会員や学校関係者ら34人が集まって除幕式を行い、全国にその名を知らしめた足跡を振り返り、さらなる活躍を後輩に託した。

1917（大正6）年にできた旧制龍野中学陸上競技部が前身。以来、約900人の部員が名を連ねた。